

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年8月14日
【四半期会計期間】	第57期第1四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）
【会社名】	かどや製油株式会社
【英訳名】	KADOYA SESAME MILLS INCORPORATED
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小澤 二郎
【本店の所在の場所】	東京都品川区西五反田八丁目2番8号
【電話番号】	(03)3492-5545（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員管理部長 戸倉 章博
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区西五反田八丁目2番8号
【電話番号】	(03)3492-5545（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員管理部長 戸倉 章博
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第56期 第1四半期 累計期間	第57期 第1四半期 累計期間	第56期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成25年4月1日 至平成25年6月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(百万円)	5,437	5,678	21,435
経常利益(百万円)	624	783	2,537
四半期(当期)純利益(百万円)	366	468	1,545
持分法を適用した場合の投資利益 (百万円)	-	-	-
資本金(百万円)	2,160	2,160	2,160
発行済株式総数(千株)	9,400	9,400	9,400
純資産額(百万円)	17,917	19,054	19,334
総資産額(百万円)	21,948	23,444	23,979
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	38.95	49.89	164.45
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
1株当たり配当額(円)	-	-	75
自己資本比率(%)	81.6	81.3	80.6
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	0	1,367	2,167
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	151	53	445
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	535	605	631
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	6,365	6,118	8,144

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結経営指標等については記載しておりません。  
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
4. 第56期の1株当たり配当額には、東京証券取引所市場第一部銘柄指定記念配当10円を含んでおります。  
5. 四半期財務諸表等規則第4条の2第2項により、四半期キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1)業績の状況

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、新政権のもと景気回復への期待感から株価が上昇し消費意欲が高まり、緩やかに景気が回復し始めている兆候が見えましたが、発表された政府の経済改革案に対する失望感から株価の急落が起こる等、今後の動向は予測し難い見通しであります。

また、食品業界におきましても円安や新興国の発展に伴い需要増等を背景とした原材料価格の高騰によるコスト増加が必至であり、業界をとりまく環境は依然厳しい状況が予想されます。

このような状況下、当社は北米マーケットを中心に輸出が好調であったこと、円安や原料価格高騰によるコストアップに対して、製品値上げを打ち出したことによる駆け込み需要があったこと等により売上高は前年同期比4.4%増となりました。

コスト面では、既存設備の償却が進んだこと、前期に製品の安全性を高めるための業務改善が一段落したこと等の減少要因はあったものの、原料価格の高騰や円安が進んだこと等により、売上原価は前年同期比13.5%増となりました。

一方、販売費及び一般管理費は、徹底したコスト削減を図ったこと等により前年同期比10.9%減となりました。

この結果、売上高は、5,678百万円（前年同期比241百万円増）、経常利益は783百万円（前年同期比159百万円増）、四半期純利益468百万円（前年同期比102百万円増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### ごま油事業

ごま油事業におきましては、家庭用では同業他社との競合等により苦戦するものの、業務用では取引先の拡大や近年力を入れてきた輸出やセサミンが成果を出しつつあり、前年を上回る状況となりました。

また、原料購入価格が前期を上回っており、かつ円安に推移したこと等により単位当たりの原価は前期を上回る状況であります。

こうした環境下において、当社は市場ニーズに合致した新製品の開発を進めながらも、売上増加を図った対策を実施しております。

以上の結果、売上高は4,602百万円（前年同期比152百万円増）、セグメント利益は468百万円（前年同期比7百万円減）となりました。

#### 食品ごま事業

食品ごま事業におきましては、加工メーカー等の取引拡大を図り、前年を上回る状況となりました。

また原料購入価格はごま油と同様に、原料高騰及び円安に推移したこと等により前期を上回る状況であります。

こうした環境下において、当社は、徹底したコスト削減を行い、利益確保のための対策を実施しております。

以上の結果、売上高は1,074百万円（前年同期比88百万円増）、セグメント利益は161百万円（前年同期比36百万円増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前事業年度末に比べ2,026百万円減少し、6,118百万円となりました。

なお、当第1四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期累計期間において営業活動によるキャッシュ・フローは、1,367百万円の支出（前年同期比1,366百万円支出増）となりました。これは税引前四半期純利益が781百万円あり、仕入債務が457百万円増加するなどの増加要因はあったものの、たな卸資産が1,119百万円増加、未払金が311百万円減少、売上債権が593百万円増加、法人税等の支払額が502百万円あるなどの減少要因により、資金が減少したものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期累計期間において投資活動によるキャッシュ・フローは、53百万円の支出（前年同期比97百万円支出減）となりました。これは有形固定資産等の取得による支出が52百万円あったこと等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期累計期間において財務活動によるキャッシュ・フローは、605百万円の支出（前年同期比69百万円支出増）となりました。これは配当金の支払いによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について、重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期累計期間における研究開発活動の金額は、13百万円であります。

なお、当第1四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,400,000	同左	東京証券取引所 市場第一部	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	9,400,000	同左	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
平成25年4月1日 ~ 平成25年6月30日	-	9,400,000	-	2,160	-	3,082

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,399,300	93,993	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 600	-	-
発行済株式総数	9,400,000	-	-
総株主の議決権	-	93,993	-

【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 株式数の割合(%)
かどや製油株式会社	東京都品川区西五反田 八丁目2番8号	100	-	100	0.00
計	-	100	-	100	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号、以下「四半期財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期財務諸表等規則第4条の2第2項により、四半期キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】  
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	8,159	6,133
受取手形及び売掛金	4,460	5,075
商品及び製品	851	840
仕掛品	609	670
原材料及び貯蔵品	2,888	3,957
その他	440	301
流動資産合計	17,411	16,979
固定資産		
有形固定資産	4,822	4,730
無形固定資産	32	30
投資その他の資産	1,714	1,703
固定資産合計	6,568	6,464
資産合計	23,979	23,444
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,787	2,247
未払法人税等	518	199
賞与引当金	178	88
役員賞与引当金	73	15
その他	1,267	1,042
流動負債合計	3,825	3,594
固定負債		
退職給付引当金	707	682
資産除去債務	71	72
長期未払金	41	40
固定負債合計	820	795
負債合計	4,645	4,390
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,160	2,160
資本剰余金	3,082	3,082
利益剰余金	13,845	13,609
自己株式	0	0
株主資本合計	19,088	18,852
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	216	193
繰延ヘッジ損益	28	8
評価・換算差額等合計	245	201
純資産合計	19,334	19,054
負債純資産合計	23,979	23,444



( 2 ) 【四半期損益計算書】  
【第 1 四半期累計期間】

( 単位 : 百万円 )

	前第 1 四半期累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 6 月30日)	当第 1 四半期累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 6 月30日)
売上高	5,437	5,678
売上原価	3,028	3,439
売上総利益	2,408	2,239
販売費及び一般管理費	1,808	1,609
営業利益	600	629
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	7	8
為替差益	14	137
雑収入	2	10
営業外収益合計	26	156
営業外費用		
支払手数料	1	1
雑損失	0	0
営業外費用合計	1	2
経常利益	624	783
特別損失		
固定資産除売却損	5	1
特別損失合計	5	1
税引前四半期純利益	618	781
法人税、住民税及び事業税	186	192
法人税等調整額	66	120
法人税等合計	252	312
四半期純利益	366	468

## (3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	618	781
減価償却費	145	135
その他の償却額	0	1
賞与引当金の増減額(は減少)	89	89
役員賞与引当金の増減額(は減少)	50	58
退職給付引当金の増減額(は減少)	19	24
貸倒引当金の増減額(は減少)	0	0
受取利息及び受取配当金	8	8
支払手数料	1	1
有形固定資産除売却損益(は益)	5	1
売上債権の増減額(は増加)	168	593
破産更生債権等の増減額(は増加)	0	0
たな卸資産の増減額(は増加)	535	1,119
前払費用の増減額(は増加)	45	15
未収消費税等の増減額(は増加)	-	15
未収入金の増減額(は増加)	0	0
その他の資産の増減額(は増加)	4	21
仕入債務の増減額(は減少)	501	457
未払金の増減額(は減少)	4	311
未払費用の増減額(は減少)	15	15
未払消費税等の増減額(は減少)	38	68
その他の負債の増減額(は減少)	48	57
小計	541	870
利息及び配当金の受取額	8	8
支払手数料の支払額	2	2
法人税等の支払額	548	502
営業活動によるキャッシュ・フロー	0	1,367
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	148	52
無形固定資産の取得による支出	0	7
有形固定資産の売却による収入	0	-
有形固定資産の除却による支出	2	0
投資有価証券の取得による支出	1	1
貸付金の回収による収入	1	9
投資活動によるキャッシュ・フロー	151	53
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	0	-
株式公開費用の支出	12	-
配当金の支払額	522	605
財務活動によるキャッシュ・フロー	535	605
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	688	2,026
現金及び現金同等物の期首残高	7,053	8,144
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,365	6,118

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期貸借対照表関係)

1. 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成25年6月30日)
投資その他の資産	76百万円	76百万円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
現金及び預金勘定	6,380百万円	6,133百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	15	15
現金及び現金同等物	6,365	6,118

(株主資本等関係)

前第1四半期累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	610	65	平成24年3月31日	平成24年6月27日	利益剰余金

当第1四半期累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月25日 定時株主総会	普通株式	704	75	平成25年3月31日	平成25年6月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ごま油	食品ごま	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,450	985	5,436	0	5,437
計	4,450	985	5,436	0	5,437
セグメント利益	475	124	599	0	600

(注) 1. 「その他」の区分には、「仕入商品販売」を含んでおります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	599
「その他」の区分の利益	0
四半期損益計算書の営業利益	600

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	ごま油	食品ごま	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,602	1,074	5,677	1	5,678
計	4,602	1,074	5,677	1	5,678
セグメント利益	468	161	629	0	629

(注) 1. 「その他」の区分には、「仕入商品販売」を含んでおります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	629
「その他」の区分の利益	0
四半期損益計算書の営業利益	629

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	38円95銭	49円89銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	366	468
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	366	468
普通株式の期中平均株式数(千株)	9,399	9,399

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8 月 9 日

かどや製油株式会社

取締役会御中

### 有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 水上 亮比呂 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 永田 立 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているかどや製油株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第57期事業年度の第1四半期会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、かどや製油株式会社の平成25年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。